永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2015年 7月

「創造」「教会の火のような試練と証人」「白い衣」



いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

 今月の聖書勉強
 「創造」

聖書の教え

 朝のマナ
 「教会の火のような試練と証人」

われらの主よ、きたりませ

 現代の真理
 「白い衣」

三重のメッセージ・もう一人の御使のメッセージ

 力を得るための食事
 「くるみ入りわらび餅」

 お話コーナー
 「見るよりかんたん」

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話: 0494-22-0465 FAX: 0494-40-1045

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話:088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話:0980-55-8136

アクセス

ホームページ:http://www.4angels.jp

発行日 2015 年 6 月 30 日 編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション 〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover; HighRes on pages 8, 52

Printed in Japan

「慰めの時」

わたしは、また、悩みの時に、聖所に大祭司がおられないで神のみ前に生きるためにはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くあるのを見た。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。

わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立 ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、「慰めの時」と「春の雨」(後 の雨)とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、 避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、 聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなけ ればならない慰めを、受けることができなかった。預言者に切り刻まれることを 拒み、すべての真理に従って、魂を清めることをしない者、そして、自分たちは、 実際よりは、はるかによい状態にあると思い込んでいる人々は、災害がくだると きになって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならな いことを悟るのである。しかし、その時には、そうする時間もなく、天の父の前 で彼らの執り成しをしてくださる仲保者もおられない。この時に先だって「不義な ものはさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさら に義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」という厳粛な宣言 が発せられたのである。すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての 悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれひとりとして、「慰め」にあずかる ことができないのを、わたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近 づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなけ ればならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だ けであることを、すべての者が覚えているようにしよう。(初代文集 149,150)

聖書の教えⅧ

6章 創造

聖書は宇宙と命のあらゆる形態のものが見えないものの中から、キリストを通して神によって創造されたこと、また「神の創造は、神がすぐにお用いになるために備えられた手段の宝庫にすぎない」(彼を掲げよ 66) ことを教えています(ヘブル 11:3; 詩篇 33:6, 9; 創世記 1:1; 2:7; ヨブ 26:7–14; 38:36; イザヤ 45:18; コロサイ 1:16)。わたしたちは神が創造された見えるものによって、見えない神をいくらか理解することができます(ローマ 1:19, 20; 詩篇 19:1)。神はこの世界を文字通りの六日間のうちに創造されました(創世記 1:31; 2:1; ヘブル 1:2; ヨハネ 1:3; ヨブ 38:4–7; 出エジプト記 20:11)。

人類は星を数えることはできませんが、神の全知では、それらはみな数えられ、 名をもって呼ばれています (詩篇 147:4, 5; イザヤ 40:26; ヨブ 9:9)。

神は創造主であられるばかりでなく、ご自分が存在させたものの支え主でもあられます。このお方はまたご自分の被造物を支えるために食物を供給されましたし、また今も供給しておられます (イザヤ 40:12; 42:5; マタイ 5:45; 使徒行伝17:24–28; 創世記1:29, 30; 詩篇 65:9–13; マタイ 6:25–30)。創造の働きが完成したとき、すべてのものは「はなはだよかった」のでした (創世記1:31; 詩篇8:1, 3, 9; 伝道の書7:29)。

宇宙、世界、人類、動物界、そして植物界は、行動に組織された体系であり、偶然に存在しうるものではありません。現れているものは、考えるための思い、見るための目、聞くための耳といったように「目的」が意図されており、知的存在者、全知全能者の「御手」から生じたものであって、聖書はこのお方を神と呼んでいます。自然は、はっきりと設計を現しており、設計があるところには設計者がいます。もし、何百万もの貴金属の破片を入れた巨大なドラム缶を、長い年月にわたって振ったりまわしたりすれば、時計やタイプライターやコンピュータを生み出す、あるいは印刷所で爆発したら、百科事典が生み出されると信じるようとすれば、相当な信仰が必要になることでしょう。それでは、人類が土と水と風と火だけで、それ以外は何もないところから意識も感覚も目的もない相互作用の偶然

の結果、自分で存在するようになったと信じるためには、いったいさらにどれほどの信仰が必要となることでしょう。ですから、もし人が神を信じないとすれば、その人は自動的に盲目で不能な偶然が、高度に複雑なもの、たとえば人間、世界、宇宙を形成することができると信じることになります。つまり、神を信じない方が、神を信じることよりも、多くの信仰を必要とするのです。

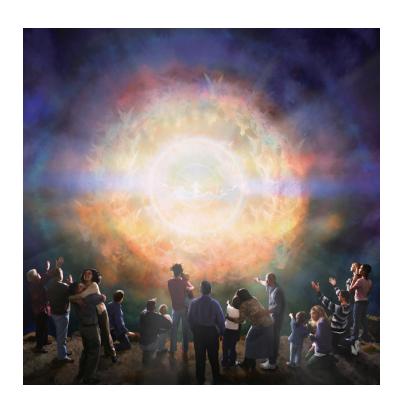
「わたしたちの世界の形成において、神は既存の物質に負ったのではなかった。 反対に、万物は物質的なものも霊的なものも、主なるエホバのみ声でその御前 に存在し、このお方の目的のために創造されたのであった。諸天とそのすべての 万軍、地とその中にある万物は、神のみ手のわざであるばかりではない。それら はこのお方の口の息によって存在するようになったのである。」(教会への証8巻 258, 259)

「地球が創造主のみ手によって造られたとき、それは非常に美しかった。その表面には、山や丘や野原があって変化に富み、きれいな川や美しい湖水が、ここかしこにあった。しかし、山や丘は、現在のように、けわしく、荒けずりでなく、恐ろしい絶壁や裂け目などはなかった。地球の骨組みをなす岩かどは、肥沃な土地におおわれて、いたるところで、緑の草木が繁茂していた。気味の悪い沼や、不毛のさばくはどこにもなかった。どちらを向いても、優雅な灌木や優美な花が視線をとらえた。丘は、今はえているどんな木よりも堂々とした樹木で飾られていた。空気は、臭気で汚染されておらず、清らかで健康的であった。回りのけしきは、どんなりっぱな宮殿の飾り立てられた庭園よりも、はるかに美しかった。天使の群れは、その光景をながめて感激し、神のすばらしいみわざに歓喜の声をあげた。」(人類のあけぼの上巻 17, 18)

MEMO

われらの主よ、きたりませ

Maranatha



7月「教会の火のような試練と証人」

宗教の三重連合

「また見ると、龍の口から、獣の口から、にせ預言者の口から、かえるのような 三つの汚れた霊が出てきた。これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界 の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、 戦いをするためであった。」(黙示録 16:13, 14)

神の律法を犯して、ローマ法王権の制度を強制する法令を出すことによって、わが国〔アメリカ合衆国〕は、義とのつながりを完全に断つことになる。プロテスタント教会が、ローマの権力と手を結ぶために淵を越えて手をさしのべ、心霊術と手をにぎるために深淵を越えて手を差し出し、この三重連合による感化の下に、わが国がプロテスタントと共和政府としての憲法のあらゆる原則を拒絶し、法王制の偽りと惑わしを広げるために準備をするとき、その時に、わたしたちは、サタンの驚くべき働きのときが来たことと、終わりが近いことを知ることができる。(教会への証 5 巻 451)

サタンは、霊魂不滅と日曜日の神聖化という二つの重大な誤りを通して、人々を彼の欺瞞のもとに引き入れる。前者は心霊術の基礎を置き、後者はローマとの親交のきずなを作り出す。合衆国の新教徒は、率先して、心霊術と手を結ぶために淵を越えて手を差しのべる。彼らはまた、ローマの権力と握手するために深淵を越えて手を差し出す。この三重の結合による勢力下に、アメリカはローマの例にならって良心の権利をふみにじるのである。……

ローマカトリック教徒、プロテスタント教徒、そして世俗の人たちもみな同じように、力のない形だけの敬虔を受け入れるであろう。そして彼らはこの合同の中に全世界を改心させるための一大運動と、長く待ち望んでいた福千年期の先触れを認めるのである。(各時代の大争闘下巻 350,351)

わが国[合衆国]が日曜休業令を制定するほどまでに国家の原則を捨ててしまうとき、プロテスタント教会はこの行為でカトリック教会と手を結ぶ。そしてこのことは実際に圧制をふたたび行おうと長い間熱心に機会をうかがってきた暴君に、生命を与えてしまうに過ぎない。(教会への証5巻712)

サタンと三重連合

「龍がその権威を獣に与えたので、人々は (獣に権威を与えた) 龍を拝み、さらに、その獣を拝ん」だ。(黙示録 13:4)

「それには小羊のような角が二つあって、龍のように物を言った。」神の小羊に 従う者であると公言するが、人々は龍の精神を吹き込まれるものとなる。彼らは 柔和で謙遜な者であると公言するが、彼らはサタンの精神をもって語り、立法化 し、自らの行動によって自分たちが公言しているものとは反対であること示す。こ の小羊のような権力は神の戒めを守り、イエス・キリストの証を持つ者に戦いを いどんで龍と結びつく。そしてサタンは、プロテスタントやローマカトリック教徒 たちと結合し、この世の神として彼らと一致する、彼らが自分の王国の臣下であ るかのように、彼の気に入るように扱われ、治められ、支配されるようにと人々 に命令する。もしも人々が神の戒めを足の下に踏みにじることに同意しないなら、 龍の精神が表れる。彼らは牢に入れられ、議会に引き渡され、処罰される。「ま た、小さきものにも大いなるものにも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、 奴隷にも、すべての人々に、その右の手、あるいは額に刻印を押させ」る。彼は「そ の獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、 その獣の像を拝まないものをみな殺させた。」このようにしてサタンはエホバの神 の大権を侵害する。罪の人は自身を神であると宣言し、神より上であるかのよう に行動しつつ、神のみ座にすわる。

神の印を帯びる者と、獣とその像とを拝む者との間には著しい違いがある。主の忠実な僕たちは、偽りの教師たちから、もっとも苦い迫害を受ける。この教師たちは、神のみ言葉を聞こうとせず、聞こうとする者の道につまずきの石を置こうとする者たちである。しかし神の民は恐れるべきでない。サタンは自分に許された以上を行うことはできない。主はご自分の民の守りとなってくださる。このお方は真理のためにご自分の僕に対して行われた危害を、ご自身に対してなされたとみなされる。最後の決定がなされ、すべての者が、キリストと戒めの側につくか、大背教者の側につくかを決めたとき、神はみ力をもってたちあがり、このお方を冒涜していた者の口は永久に沈黙する。どの敵対していた力もその罰を受ける。(手紙 28、1894 年)

真理の腐敗

「そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、また、『あそこにいる』と言っても、それを信じるな。」(マタイ 24:23)

背教の働きが最後に進展する前に信仰の混乱が起こる。神の神秘に関して、はっきりとした、明確な観念がなくなる。真理が一つずつ腐敗させられる。(サイン ズ・オブ・タイムズ 1894 年 5 月 28 日)

真理があらゆる国民に証として宣言されて後、考えられる限りのあらゆる悪の力が働きを開始するので、人々の思いは「見よ、ここにキリストがいる。見よ、彼はあそこにいる。これが真理だ。わたしは神からメッセージを受けている。神は大いなる光を伴って、わたしを使わされた。」と、多くの者が叫ぶので混乱がおこる。それから、地境が動かされ、わたしたちの信仰の柱を取り壊そうとする企てが起こる。偽りの安息日を高めて、神が祝福し聖別されたその日に取って代えることによって、神ご自身を侮辱するために、もっと徹底的な努力がなされる。この偽りの安息日は圧政的な法律によって強制される。(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント | 7 巻 985)

将来、あらゆる種類の惑わしが起こるので、わたしたちは自分の足のために、 堅固な土台を望むのである。わたしたちは建物のために堅固な柱を必要としている。主が制定なさったことから一本のピンといえども取り除くべきではない。敵は、 聖所は無いといった教理のような偽りの説を持ち込む。これは、信仰から離れる 論点の一つとなる。(伝道 224)

偽りの夢と幻が存在するであろう。それには幾分の真理はあっても、本来の信仰から引き離してしまう。主は人々に「ただ律法と証とに求めよ。もし彼らがこの言葉によって語らないなら、それは彼らに光がないからである」と見わけるための基準を与えておられる(イザヤ8:20 英語訳)。(セレクテット・メッセージ2 巻 98)

わたしたちが時の終わりに近づくとき、虚偽が真理と非常によく交じり合うので、聖霊の導きを受けている者だけが真理と誤りを見分けることができる。わたしたちは主の道を守るためにあらゆる努力をする必要がある。わたしたちは決して、人を信頼して主の導きからはずれてはならない。主の天使たちは、主を信じる者たちを厳重に見守り続けるようにと命じられているので、この天使たちは必要な時はいつでもわたしたちの特別な助けとなるのである。わたしたちは毎日信仰の確信をもって主のところに来て、主に知恵を求めるべきである。……主の御言に導かれている者は、偽りと真理、罪と義とを確信をもってみわける。(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント]7 巻 907)

預言におけるアメリカ合衆国

「わたしはまた、ほかの獣が地から上って来るのを見た。それには小羊のような 角が二つあって、龍のように物を言った。」(黙示録 13:11)

預言の指示するところに合致する国は、ただ一つしかない。それは、疑いもなくアメリカ合衆国を指している。(各時代の大争闘下巻 159)

ここに我が国の起源と発展についてのきわだった象徴がある。そして小羊のような角とは純潔と柔和の象徴であり、共和主義とプロテスタント主義という二つの根本的な原則に表わされているように、わが国政府の特徴をよく表している。 (預言の霊 4 巻 277)

主は太陽の輝く他のどの国よりも合衆国のためにもっと多くのことをなされた。このお方はご自分の民のために避難所をここに備えられたので、民はここで良心の命ずるところに従って神に礼拝を捧げることができた。ここでキリスト教は純潔のうちに進展した。神と人との唯一の仲保者であられるお方の命を与える教理が惜しみなく教えられた。この国がすべての人々にとって、良心の命ずるところに従って、神を礼拝するための自由を永遠に残すというのがこのお方のご計画であった。神は幅広い範囲においてこの国の社会制度が福音の恩恵という特権をあらわすようにと計画しておられた。

しかしすべての義の敵は、この国のために計画しておられる神のご目的に対して企てを持っている。サタンは神がおられることを人々に忘れさせるような事業を持ちこむ。偶像である世俗を愛する心とむさぼりの心はあらゆる面で神の律法が無効にされるまで、大欺瞞者の働きを通してはびこる。(原稿 17、1906 年)

サタンがわたしたちに抜き足差し足で近づいているのをわたしは示された。サタンの代理人を通じて、神の律法は無効にされることになる。自由が誇りであったわが国で宗教上の自由が終わりを迎える。(伝道 236)

立法審議会で、わが国が人々の宗教上の特権に関して、人々の良心を拘束する法律を制定し、日曜遵守を強制し、第七日目の安息日を守る人々に圧制的な力でのしかかるとき、神の律法は、どの点から見ても、わが国で無効にされるであろう。そして国家の背教の後には国家の滅亡が続くであろう。(SDA パイプル・コメンクリ [E・G・ホワイト・コメント]7 巻 977)

プロテスタントとカトリックによる迫害

「またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。しかし、 最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」(マタイ 10:22)

わたしたちは迫害に耐えることができないなどと考える必要はない。わたしたちは恐ろしい情勢の中を歩まなければならないのである。(レピュー・アンド・ヘラルト゚ 1890 年 4 月 29 日)

ローマカトリック教によるプロテスタントの迫害の結果、イエス・キリストの宗教がほとんど壊滅状態になったが、プロテスタント主義とカトリック教が結合するとき、さらにひどい状態になるであろう。(原稿30、1889年)

戒めを守っている神の民はまもなく、もっとも苦しい立場に置かれるであろう。 しかし光の中を歩き、光を周囲に撒き散らしてきた者はみな、神が自分たちのために介入して下さることに気づく。あらゆることが不可能に思えるそのときに、主は忠実な者たちのためにご自分の力をあらわされる。神がそれほどまでに驚くべき方法で働かれた国、全能者の覆いを上に広げていただいた国が、プロテスタントの原則を捨て、またその国会を通じて、宗教の自由を制限することによって、ローマカトリックに支持と援助を与えるそのとき、神は真実なご自分の民のためにご自身の力をもって働かれる。ローマの暴君は権力を行使する。しかしキリストはわたしたちの避難所である。(牧師への証 206)

米国の主要な教会が、その共通の教理において合同し、国家を動かして教会の法令を施行させ、教会の制度を支持させるようになるそのときに、プロテスタント・アメリカは、ローマ法王制の像を造り、その必然の結果として、反対者たちに法律上の刑罰を加えることになるのである。(各時代の大争闘下巻165)

聖書はローマカトリック教が一度は失った支配権をふたたび得ることと,迫害の炎がいわゆるプロテスタント教会の世の風潮に従う譲歩を通じてふたたび点火されることを教えている。この危難のときに、わたしたちは真理と神の力を持つときだけ、立つことができる。……個人的な危険や苦悩をもたらした事がらを考えて、失望を引き起こす必要はない。むしろそれが神の民の希望と活力を奮い起こすべきである。なぜなら、民にとって危難の時は、神がご自分の力のあらわれを、民によりはっきりとあらわされる好機だからである。(セレケテット・メッセージ 2巻 367-370)

キリストのために迫害される

「いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。」(テモテ第二 3:12)

キリストが正当な理由もなく憎まれたように、キリストに従う民も、神の戒めに従順であるという理由で憎まれるであろう。もし純潔で聖なる汚れていないお方、わたしたちの世で善、良いことだけをなさったお方が、卑しい犯罪人として取り扱われ、死刑を宣告されたのであれば、弟子たちも彼らの生涯に欠点がなく、彼らの品性に非のうちどころがなくても同じような扱いを受けることは当然予期しなければならない。

悪を抑制し、善を勧めるという口実のもとに、サタンの代理人たちによって捏造(ねつぞう)された法律、人間の法令が高められる。その一方で神の聖なる戒めは軽んじられ、足の下にふみにじられる。そしてエホバの神の律法への従順によって自分たちの忠誠を証明する者はみな捕らえられ、神の聖なる律法を自分たちの基準としていない者たちの議会へ引き出される覚悟をしなければならない。(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 7巻 977)

この地上歴史の最後の時代に生きている人々は、真理のために迫害を受けるというのが何を意味しているのかを知ることになる。法廷では不正が勝利を得る。裁判官たちは、神の戒めに忠実な人々の理由を聞こうとしない。なぜなら彼らは第四条の戒めに賛成する議論には反駁できないことを知っているからである。彼らは「わたしたちには法律がある。そしてわたしたちの法律によると、彼は死刑に価する」と主張する。彼らの言う「わたしたちの法律」は最高のものである。この人間の法律を尊重する者は恩寵を受けるが、偶像の安息日にひざまずかない者は何の恩寵も示されないのである。(サインズ・オブ・タイムズ1898年5月26日)

夏には常緑樹とほかの木々との間に著しい違いはないが、冬のこがらしが吹くときになると、常緑樹は変わらないが、ほかの木々は葉が落ちて裸になる。そのように、現在は心に偽りのある信者と真のキリスト者との見分けがつかないが、しかしその違いが明らかになる日が、今まさにわれわれに臨もうとしている。反対が起こり、頑迷と偏狭が再び吹きまくり、迫害の火が燃やされるときに、二心の偽善者たちは動揺して信仰を放棄するであろう。しかし真のキリスト者は岩のように堅く立ち、繁栄の日よりも信仰が強くなり、望みはいっそう明るくなるであろう。(各時代の大争闘下巻 369, 370)

かつての兄弟たちが最悪の迫害者

「そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。」(マタイ 24:10)

あらしが迫って来るとき、第三天使のメッセージを信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっている。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らを中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる。(各時代の大争闘下巻 378)

神の民はこれらの悩みの時を前にして、揺らぐことのない信仰を持たなければならない。神の民は、ただ神だけが礼拝の対象であること、そしていかに重大なことであり、それが生命そのものにかかわるものであっても、彼らを偽りの礼拝に少しでも妥協させることはできないことを明らかにしなければならない。(国と指導者下巻121)

その時、金が不純物から分離される。……われわれが輝かしさを賛美した多くの星が、その時暗黒の中に消えていく。聖所の飾りのようなふうをしてはいたが、キリストの義をまとっていなかった人々は、その時裸の恥をさらす。

各地に散在する地の住民のなかには、バアルにひざをかがめない者がある。 夜だけ現れる空の星のように、これらの忠実な人々は、暗きが地を覆い、やみが もろもろの民を覆うときに輝き出るのである。……そしてサタンが、「小さき者にも、 大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべて の人々に」、違反者は死刑に処すると言って、偽の休日に対する忠誠のしるしを受 けさせる最も暗黒の時に、これらの忠実な人々は、……「星のようにこの世に輝 いている」(ピリピ 2:15)。夜が暗ければ暗いほど彼らは明々と輝くのである。(国 と指導者上巻 156, 157)

友人や親戚に裏切られる

「そして家の者が、その人の敵となるであろう。」(マタイ 10:36)

神の律法が無効にされ、地上に住むすべての者を試みる激しい試練によって教会がふるわれるとき、本当のクリスチャンであると思われていた人々の大部分の者が誘惑する霊に耳を傾け、そして裏切り者に転じて、聖なる信頼を裏切るようになる。彼らはわたしたちの最悪の迫害者であることを証明する。「あなたがた自身の中から、いろいろな曲がったことを言って、弟子たちを自分の方に、ひっぱり込もうとする者らが起こるであろう。」そして多くの者が誘惑する霊に耳を傾けるようになる。(レピュー・アンド・ヘラルド 1897 年 6 月 8 日)

試練の時に背教者となる者は、自分の安全を守るために偽りのあかしをし、兄弟たちを裏切る。彼らは兄弟たちがどこに隠れているかを話し、彼らの跡に狼を放つのである。わたしたちが友人や親戚に追跡されるという、残酷で異常な成り行きに驚かないようにと、このことについてキリストはわたしたちに警告してこられた。(同上 1898 年 12 月 20 日)

わたしたちはイエス・キリストのみ手以外の手はすべて放さなければならないことに気づくであろう。友人たちは不真実な証をし、わたしたちを裏切る。敵に欺かれた親戚はわたしたちに敵対し、わたしたちが信仰を打ち消すことを期待しつつ、わたしたちを困難な立場に追い込むために最大限の努力をすることによって、神に奉仕していると思い込む。しかしわたしたちは暗黒と危機のただ中にあって、自分の手をキリストのみ手に任せることができる。(原稿 21、1889 年)

キリストに従う者はあざけりにあうことを覚悟しなければならない。彼らは口汚くののしられるであろう。彼らの言葉と信仰は誤り伝えられるであろう。冷淡とさげすみに耐えるのは殉教よりもさらに困難になるであろう。……

人気のない真理を受け入れる子供にたちに対して、両親は無情になる。良心的に神に仕える者は謀反人として訴えられる。現代の真理を信じる子供たちや他の親戚の者に遺言で与えられた財産は他の者の手に渡される。後見人は孤児や、未亡人に当然支払われるべきものを奪う。悪から離れる者は、良心を束縛するために施行された法律によって犠牲となる。人々は自分たちには権利のない財産を自分のものにする。「キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」という使徒の言葉が近い将来実証される。(手紙 30a1892 年)

死の脅迫の下で

「あなたがもし、このような時に黙っているならば、ほかの所から、助けと救が ユダヤ人のために起るでしょう。しかし、あなたとあなたの父の家とは滅びるでしょ う。あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知 りましょう。」(エステル 4:14)

驚くべき出来事がまもなく世界の前に開かれる。万物の終わりは近い。神の民にとって困難な時が今にも来ようとしている。その時には、主の安息日を守る者は売ることも買うことも禁止されるという法令が出て、彼らが週の最初の日を安息日として遵守しないなら、罰を、そして死刑さえも与えると脅かす法令が出る。(レビュー・アンド・ヘラルド、1908年11月19日)

神の民に敵対して出されるその法律は、エステルの時代にアハシュエロスがユダヤ人に対して発布したその法令によく似ている。……サタンは真の神の知識を保つ者を地上から取り除くために陰謀を引き起こした。しかし彼のたくらみは人の子らのただ中で支配する別の力によって打ち破られた。……

プロテスタント教会は今日、安息日を守る群れは門のそばにいたモルデカイのように小さな群れであると思っている。神の律法に対する崇敬の念を表している者の品性と行いは、主を恐れることを捨てて、主の安息日をふみにじっている者たちに対する絶え間ない譴責である。歓迎されない侵入者は何らかの方法で片付けなければならない。

過去の各時代に、忠実であった者に対して陰謀をめぐらしたのと同じ独断的な心が、神をおそれ、神の律法に従う者を地上から取り除こうと今も努めている。サタンは、人気のある習慣や伝統を受け入れることを、良心的に拒む少数の謙遜な者に対して怒りを起こさせる。地位と名声のある人々は神の民に敵対して相談するために、無法で邪悪な者の仲間になる。……聖書による安息日の擁護者に対して、「聖書にこのように書いてある。」という言葉を持ち出すことができないために、彼らは欠けているところを埋めようと過酷な法律に訴える。……この闘争の場に、真理と誤りの間の争闘という最後の大いなる争いが起こる。そしてわたしたちはこの論争に対して不確かなままで放って置かれることはない。モルデカイの時代のように、今日も主はご自分の真理とご自分の民を守られる。(教会への証5巻451)

最後の時代の殉教者

「人々はあなたがたを会堂から追い出すであろう。更にあなたがたを殺す者が みな、それによって自分たちは神に仕えているのだと思う時が来るであろう。」(ヨ ハネ 16:2)

この世界に住んでいる者はみな、それぞれ二つの旗のどちらか一方のもとに立つ。(天国で48)

二つの大群は別々に分かれて立つ。そしてこの区別は非常にはっきりしているので、真理を確信する者は神の戒めを守る人々の側にくる。この壮大な働きが戦場で行われるとき、最後の争闘が閉じる前に、多くの者は牢に入れられ、多くの者は自分の生命を守るために都市や町々から逃れる。また多くの者は真理を守って立つことにより、キリストのために殉教者となる。(原稿6、1889年)

神の律法に違反してローマ法王制の慣習を強制する法令を発布することによって、わが国[アメリカ合衆国]は自らを義から完全に断ち切る。……

弟子たちにとって、ローマ軍の接近は、エルサレムの滅亡が差し迫っているというしるしであった。そのようにこの背教は、わたしたちにとって神の忍耐が限界に達しており、わが国の不法の升目が満ちて、恵みの天使は今にも飛び立ち、決して帰ってはこないというしるしである。神の民はそのとき、預言者がヤコブの悩みのときとして説明している苦悩と危難の立場に陥る。忠実な、迫害を受けた者の叫びは天へ上がる。そしてアベルの血が地から叫んだように殉教者の墓から、海の底にある墓から、山の洞窟から、地下の納骨所から、「聖なるまことなる主よ。いつまであなたは、さばくことをなさらず、また地に住むものに対して、わたしたちの血の報復をなさらないのですか」と叫ぶ声が聞かれるのである。(教会への証5巻451)

第五の封印が解かれたとき、黙示録の記録者ヨハネは幻の中で、神の御言とイエス・キリストの証のために殺された人々の群れが祭壇の下にいるのを見た。この後黙示録 18 章に述べられている光景が続いた。すなわち、忠実で、誠実な人々がバビロンから呼び出されるのである。(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント]7 巻 968)

キリストは奪われた生命を回復される。なぜならキリストは生命を与える方であるからである。主は永遠の命で義に美を添えられる。(レピュー・アンド・ヘラルド 1897 年 12 月 7 日)

ふるいの時

「また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。」(マタイ 24:12)

神の民が額に印を押され(その印は目に見える印やしるしではなくて、知的にも霊的にも真理に堅く立つことによって彼らは動かれることがないという意味である)、ふるいに対する準備ができるとすぐにふるいのときが来る。実際のところ、このふるいはすでに始まっている。神のさばきはいま地上で行われており、わたしたちに警告が与えられているので、わたしたちは何が起ころうとしているのかを知ることができる。(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント]4 巻 1161)

大きな困難と混乱の時が速やかに近づいている。天使の衣をまとったサタンができることなら選民をも惑わそうとする。多くの神々や多くの支配者が起こる。 あらゆる教理の風が吹き荒れる。……

獣の刻印がわたしたちに強制される。一歩ずつ世の要求に屈し、世の習慣に合わせていく者は、嘲笑や侮辱、また投獄や死という脅迫に自分の身をさらすよりは、むしろその権力に従う方が楽であると思うであろう。論争は神の戒めと人間の戒め間でなされる。このとき純金は教会にいる不純物から分けられる。真の信心がうわべだけ、また見せかけの信心からはっきり区別される。わたしたちがそのすばらしい輝かしさを称賛していた多くの星が、そのとき暗闇に消えてゆく。わたしたちが豊かな麦畑だと思っていた所からさえ、もみ殻が雲のように風に吹き払われる。聖所の儀式によって自分の身を飾ってはいたが、キリストの義をまとっていなかった人々は、その時裸の恥をさらす。(教会への証 5 巻 80,81)

しかし、真理を受け入れる人々がいる。この人々は真理に逆らい、真理から離れる者により空席となった場所を占めるのである。……

真のクリスチャンの原則を持つ人々は彼らの代わりに立ち、神のみ言葉、すなわち、そのみ言葉の真の意味と、また原則と、また単純さを擁護するため、忠実な、また信頼できる家長となるのである。主は不平を抱いている者が、真の忠誠な者から離れるように働かれる。……列は減らない。信仰に堅く立つ忠実な人々は、真理に逆らい背教者となる者が作った空席を占める。(原稿 97、1898 年)

ふるいの光景

「わたしは、わがねたみと、燃えたつ怒りとをもって言う。その日には必ずイスラエルの地に、大いなる震動があり」(エゼキエル 38:19)

わたしは、深い信仰と苦悶の叫びをあげて、神に嘆願している人々を見た。 彼らの顔は青ざめ、深い憂いの色を帯びていて、彼らの内的苦闘を表していた。 その表情には、堅忍不抜の精神と非常な熱心さとがあらわれていた。彼らの額 からは、大きな汗のしずくが落ちた。……

悪天使たちは、彼らを取り囲み、彼らを闇の中に閉じこめて、イエスを見えないようにしていた。それは、彼らが回りの暗黒に目を向けて、神に信頼せず、神に対してつぶやくようになるためであった。彼らの唯一の安全な方法は、目を上に向けていることであった。神の天使たちは、神の民を守っていた。そして、悪天使たちの悪影響がこれらの熱心な人々の回りに迫ってくるときに、天使たちは、絶えず彼らの翼を動かして、濃い暗黒を追い払っていた。

祈っている人々が、彼らの熱心な叫びをつづけていると、時々、イエスからの 光が彼らに輝き、彼らの心を励まし、彼らの顔を輝かせた。ある人々は、この苦 闘と祈りに加わらないのをわたしは見た。彼らは、不注意で無関心なように見え た。……神の天使たちは、……熱心に祈っている人々を助けに行った。……しか し、神の天使たちは、自らを助けようと努力しない人々を去った。そして、わたし は彼らを見失ってしまった。

わたしは、わたしが見たふるいの意味をたずねた。そして、それは、ラオデキャ教会へのまことの証人の勧告が生じさせた率直なあかしによるものであることを、わたしは示された。……

わたしは前に大いにふるわれるのを見たその一団の人々に注目した。……彼らの回りの守護の天使は二倍に増やされた。そして人々は、頭から足まで、武具をまとっていた。……

わたしは、武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であった。……わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。「それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫びである」と天使は言った。(初代文集 437-440)

大いなる叫びの下での一致と分離

「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。 見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には 主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあらわれる。」(イザヤ 60:1,2)

試練がわたしたちの周りに濃く立ち込めるとき、分離と一致がわたしたちの集団の中に見られる。今、戦いのために武器を手に取る準備をしている者たちが真の危機の時には、自分たちが安全な岩の上に建てていなかったことを示し、誘惑に屈してしまう。偉大な光と尊い特権を持っていたけれどもそれを活用しなかった者たちは、もっともらしい理屈をつけて、わたしたちから離れる。彼らは真理の愛を受け入れていなかったので、敵の惑わしを受け入れる。彼らは惑わす霊と悪霊の教理に心を留め、信仰から離れる。しかし一方では、迫害の嵐が本当にわたしたちに襲いかかるとき、真の羊は真の羊飼いの声を聞き分ける。失われた者を救うために無我の努力がなされ、檻からさまよい出た多くの者は、偉大な羊飼いに従うために戻ってくる。神の民は互いに結びつき、敵に対して共同戦線を張る。共通の危険を見て、主権争いが止む。だれがもっと偉いかという論争はなくなる。真の信者はだれも「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケパに」とは言わない。一人のまた全員の証が、「わたしはキリストにつく。わたしは自分の個人的な救い主としてキリストの内に喜ぶ」となる。(教会への証6巻400,401)

第三天使のメッセージが大いなる叫びとなっていくときに、偉大な力と栄光が その宣言に加わる。神の民の顔は天来の光で輝く。(同上7巻17)

この世の統治者の多くはサタンが支配している者たちである。しかし……神は統治者の中にさえ、ご自分の代理者をもっておられる。そして彼らのうちの何人かは真理へと改心さえする。……その代理者のうち数名のものは悪の大きな集団を圧倒する力を持つ。このようにみ働きは第三天使のメッセージがその働きをなしとげるまで続き、第三天使の大いなる叫びの時にこの代理者たちは真理を受け入れる機会を得て、彼らのうちの何名かは改心し、悩みの時に聖徒たちと共に耐えるのである。(同上1巻203,204)

教会は今にも倒れそうに見える

「しかしシオンは言った、『主はわたしを捨て、主はわたしを忘れられた』と。『女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまないようなことがあろうか。たとい彼らが忘れるようなことがあっても、わたしは、あなたを忘れることはない。』」(イザヤ49:14, 15)

サタンは欺くために奇跡をおこなう。彼は自分の力を最高のものとして掲げる。教会はまさに倒れそうに見えるかもしれないが倒れない。シオンにいる罪人がふるわれている間に、すなわち尊い麦からもみ殻が分けられている間、教会は存続するのである。これは恐ろしい試練であるが、それでもやはり受けなければならない。小羊の血と自分たちのあかしの言葉によって勝利してきた者以外はだれも、罪のしみもしわもなく、彼らの口に偽りのない忠実な者、真実な者として認められない。……真理に従うことによって、自分の魂を清める残りの民は、厳しい過程から力を集め、周囲の背教のただ中で聖潔の美をしめすのである。(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント |7 巻 911)

主がご自分の教会を愛しておられることをわたしは知っている。教会はその組織を乱されたり、独立的な原子として分離されるべきではない。これには何の一貫性もなく、またそのようなことになるという何の証拠もない。この偽りのメッセージに耳を傾け、他の者にその影響を及ぼそうとする人々は欺かれ、もっと進んだ惑わしを受け入れる準備をし、失敗の結果に終わる。(セレクテット・メッセージ2巻68,69)

イスラエルの神がまだご自分の民を導いておられ、世の終わりまで彼らと共にいてくださることに気づくとき、わたしは励まされ、祝福される。(世界総会冊子1913 年 5 月 27 日 165)

わたしたちは神が据えられた土台から今降りることはできない。わたしたちは今どのような新しい組織にも入っていくことはできない。なぜならこれは真理からの背教を意味するからである。(セレクテット・メッセージ2巻390)

まもなくもっとも厳しい闘いに入ろうとしている教会は神にとって地上におけるもっともいとしい対象である。悪の連合は下からの力にかき立てられ、サタンは自分の残忍な考案や欺瞞で、欺いたり惑わしたりすることのできない選民に、できる限りの非難をすべて向ける。しかし「イスラエルを悔い改めさせて、これに罪のゆるしを与えるために……君となり、また救い主となるために」高められた、わたしたちの代表者であり頭であられるキリストが、ご自分の心を閉ざしたり、そのみ手を引いたり、ご自分のみ約束を破ったりなさるであろうか。否、断じてそのようなことはあり得ない。(牧師への証 20)

教会のきよめ

「彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる。」(マラキ3:3)

大欺瞞者の奇跡を行う力がもっと決定的に表される時が、わたしたちの目前にある。そして彼の欺きはその魅惑的な力を増し、できれば選民をも惑わし、欺こうとする。暗黒の君は悪天使たちと共にキリスト教世界に働きかけ、キリストの御名を公言する者たちをそそのかして、暗黒の旗の下に立たせ、神の戒めを守りイエスの信仰を持つ人々と戦わせようとする。

背教した教会は、額や手に獣の刻印を押し、神の子らに打ち勝って獣とその像を拝ませるために、地及び地獄の権力と一つになる。彼らは、神の律法への忠誠を神の子らが捨て、ローマ教皇権に敬意を表すように強制しようとする。それから人々の魂を試みるときが来る。なぜなら、背教者の同盟は神の忠実な僕たちにエホバの律法を捨て、神のみ言葉の真理を拒否するよう要求するからである。そしてそれから金は不純物から分けられ、信心深い者、忠実で真実な者と、不忠で不純な見掛け倒しの者とが明らかにされる。どれほど多くのもみ殻がそのときに神の扇によって吹き払われることであろう。わたしたちの目が今はただ、豊かな麦畑であると見ているところが、神の扇で吹き飛ばされるもみがらとなるのである。キリストを中心にしていない者はみなその日の試みと試練に耐えるのに失敗する。キリストの義を着せられている者が真理と義務に堅く立っている間に、自分の義に信頼を置いていた者は暗黒の君の黒い旗の下に並ぶ。それから、キリストにつくか、ベリアルにつくかという選びが見られる。

自分に信頼しなかった者、汚名や非難にあえて抵抗しなかった人たちは最後にははっきりと自分がキリストとキリストの律法のために立つと公に宣言する。その間に繁茂している木々であるかのように見えていたが、実を結んでいなかった多くの者が悪を行うために群衆と行動を共にする。そしてその額や手に背教の刻印を受けるのである。(レピュー・アンド・ヘラルド 1982 年 11 月 8 日)

サタンはキリストを装う(1)

「あなたがたは、惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がそれだとか、時が近づいたとか、言うであろう。彼らについて行くな。」(ルカ 21:8)

現代キリストの敵が真のキリストであるかのように現われ、それから神の律法はこの世の国々で完全に無効にされる。神の聖なる律法に対する反逆は完全に準備が整う。しかしこのすべての反逆の真の指導者は光の天使のように装ったサタンである。人々は欺かれて、サタンを神の地位にまで高め、彼を神としてあがめる。しかし全能の神が介入され、サタンを高めることで一致している背教した諸教会に対して判決を言い渡される。「それゆえ、さまざまの災害が死と悲しみとききんとが、一日のうちに彼女を襲い、そして彼女は火で焼かれてしまう。彼女をさばく主なる神は、力強い方なのである。」(牧師への証 62)

光の天使のように変装して、彼〔サタン〕は奇跡を行う者として、地上を歩く。彼は美しい言葉で気高い所感を述べる。彼によって親切な言葉が語られ、慈悲深い行いがなされる。キリストが装われる。しかし、ある一点ではっきりとした区別がなされる。サタンは人々を神の律法から背かせるのである。(クリスチャン教育の基礎 471, 472)

サタンは安息日が週の第七日目から第一日目に変ったと宣言する。そして週の第一日目の主として、彼は自分に対する忠誠の試金石として、この偽りの安息日を提供する。(原稿 153、1902 年)

天の栄光と過去の迫害のくり返しが混じり合う時に地上で生きている神の民の経験は、とうてい考え及ぶものではない。彼らは神のみ座から流れ出る光の中を歩むであろう。天使によって、天と地とは絶えず通信がなされているであろう。そして、悪天使たちに囲まれ、自分を神であると主張しているサタンは、可能であれば選民をも惑わすためにあらゆる奇跡を行うのである。神の民は奇跡を行うことで自分たちの安全を見出すことはできない。なぜなら、サタンも奇跡が行われているかのように装うからである。試みを受け、試練を受けている神の民は、出エジプト記 31:12-18 に述べられたしるしのうちに自分たちの力を見出す。彼らは「こう記されている」との生けるみ言葉の側に自分たちの立場をとるべきである。これこそ、彼らが安全に立つことのできる唯一の土台なのである。(教会への証9巻16)

サタンはキリストを装う(II)

「しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから。」(コリント第二 11:14)

サタンは神の民に敵対する最後の作戦行動の中で、彼らがそれが彼であるとはわからないような欺きを用意している。「しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから。」……サタンは神の民を悩まし、誘惑し、誤り導くために力の限りをつくす。

わたしたちの主にあえて立ち向かい、誘惑し、あざけった者、また主を自分の腕にかかえて、宮の頂上や非常に高い山に連れて行く力を持っていた者は、主よりも知恵においてははるかに劣っていたにもかかわらず、ずるさと強さにまったくといって良いほど、無知な現代の人々に驚くほどの力を働かせる。

彼は生来自分の命令を行う傾向のある人々の体に驚くべき方法で影響を及ぼ す。(青年への使命 51, 52)

彼は力強い奇跡を行いつつ、イエス・キリストを装ってやってくるので、人々は彼にひれ伏し、彼をイエス・キリストとして礼拝する。

わたしたちは、世がキリストとして崇めるこの存在に礼拝するように命じられる。 わたしたちはどうしたらよいであろうか。人間のもっとも悪い敵であり、しかも自 分をキリストであると主張する、まさにこの敵についてキリストはわたしたちに警 告しておられることを人々に告げなさい。そして、キリストが現われる時には権威 と大いなる栄光が伴い、千の幾千倍、万の幾万倍の天使に囲まれておられる。 そしてこのお方が来られるとき、わたしたちにはそのみ声が分かるのである。(SDA パイプル・コメンクリ [E・G・ホワイト・コメント]6 巻 1105、1106)

サタンが、自分はキリストであると主張しながら、あなたの目の前で奇跡を行う時が近づいている。だからもしあなたの足が神の真理の上に堅く根ざしていないなら、あなたの足は土台からそらされてしまう。(SDA パイプル・コメンケリ [E・G・ホワイト・コメント]7A 911)

サタンは最後まで戦い続ける決心をしている。キリストであると主張しつつ光の天使のようにやってきて、彼は世を欺く。しかし彼の勝利は短い。どのような嵐も暴風雨も永遠の真理という大原則にその足が根ざしている者を動かすことはできない。彼らはほとんど全世界が背教に陥っているときにしっかりと立つことができる。(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] [6 巻 1106)

サタンの奇跡 (I)

「にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、 できれば、選民をも惑わそうとするであろう。」(マタイ 24:24)

敵は自分の奇跡を行う力で全世界を欺こうと準備をしている。彼は光の天使を装い、イエス・キリストを装うのである。(セレクテット・メッセージ2巻96)

彼は自分の力が及ぶ限り、実際の奇跡を行う。聖書は、「彼は……地に住む人々を自分が行うことができる奇跡によって惑わし、」と述べており、単に彼が行う振りをする以上のことである。この聖句の中には、単純な詐欺行為以上の何かが見られる。しかしサタンが超えて行くことのできない制限があり、このところで彼は、実際には行う力のないわざをまね、欺瞞に助けを求める。最後の時代に、サタンは、自分を世に二度目にこられるキリストであると、人々に信じこませるためにそのような方法で現われる。彼は本当に自分を光の天使の姿に変えるのである。(教会への証 5 巻 698)

彼はイエス・キリストを装って現れ、力強い奇跡を行うので、人々は彼にひれ 伏し、彼をイエス・キリストとして礼拝する。わたしたちは世がキリストとして崇め るこの者を礼拝するように命令される。(レピュー・アンド・ヘラルド 1888 年 12 月 18 日)

今われわれの前には、「地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時」がある(黙示録 3:10)。神のみ言葉の上に信仰を堅く打ち立てていない者はみな、欺かれて敗北する。サタンは人の子らを支配するために「あらゆる不義の惑わしを行い、」彼の惑わしは絶えず増大する。しかしサタンは、ただ人々がその誘惑に自分から負けるときだけその相手を獲得することができる。真理の知識を熱心に求め、服従によって魂を清めるために励み、こうしてその戦いに備えて自分にできるところを行なっている者は、真理の神が確かな保護者であられることを見いだす。「忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも……あなたを防ぎ守ろう」と救い主は約束しておられる(同)。主は、ご自分に頼る魂が一人でもサタンに打ち負かされるままにしておくくらいなら、ご自分の民を守るために天からすべての天使を遣わしたいと思っておられる。(各時代の大争闘下巻 315)

サタンの奇跡 (II)

「 また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえ した。」 (黙示録 13:13)

神の民が終わりの時代の危機に近づくとき、サタンは、民の信仰をくつがえすのに最も成功を収める計画をたてるため、手下の天使たちと熱心に相談する。サタンは、人気のある教会はすでに自分の欺く力によって眠るようだまされているのを見る。人を喜ばせる詭弁と不思議によって、サタンはこれらの教会を自分の支配下に置き続けることができる。それゆえサタンは、特別にキリストの再臨を待ち望み、神の戒めをすべて守ろうと努力している者たちに対してわなをしかけるようにと悪天使たちに命令する。(牧師への証 472)

わたしたちはサタンが最後の時代にしるしと不思議をもって働くということを警告されている。そして彼は猶予の期間が閉じるまでこれらの不思議を続ける。それは自分が暗闇の天使ではなく、光の天使であるという証拠として人々に指し示すためである。(レピュー・アンド・ヘラルド 1885 年 11 月 17 日)

サタンはできることなら、選民をも惑わそうとしてやってくる。彼はキリストであると主張し、偉大な医事伝道者であるかのように装ってやってくる。彼は自分が神であることを証明するために、人々の前で天から火を降らせることさえする。 (医事伝道 87, 88)

世をとりこにするのは悪魔の偽りの不思議である。そして彼は人々の前で天から火を降らせることさえする。彼は奇跡を行うものである。そしてこの不思議な、奇跡を行う力は全世界に行き渡る。(セレクテット・メッセージ2巻51)

ある者はこれらの不思議を神からのものとして受け入れるよう誘惑される。病気の者がわたしたちの目の前でいやされる。奇跡がわたしたちの前で行われる。サタンの偽りの不思議がもっと完全に示されるとき、わたしたちは自分たちを待ち受けている試練に対して準備ができているであろうか。多くの魂がわなにかけられ、捕らえられはしないだろうか。神のはっきりとした命令と戒めから離れることによって、また作り話に耳を傾けることによって、多くの人の思いはこれらの偽りの不思議を受け入れる用意をしている。わたしたちはみな、まもなく加わらなければならない戦いのために、今、武装するよう努めなければならない。神のみ言葉を信じ、祈りをもってそれを研究し、また、実際的に適用することは、わたしたちをサタンの力から守る盾であり、キリストの血を通してわたしたちに勝利を与えるものなのである。(教会への証1巻302)

試みを受ける神の民

「その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ』。」(マタイ7:22,23)

わたしたちは欺かれる必要はない。サタンが密接に関係している不思議な光景がまもなく見られる。神のみ言葉はサタンがまもなく奇跡を行うと宣言している。彼は人々を病気にし、それから突然自分の悪魔的な力を彼らから取り除く。そうすると人々はいやされたように思えるのである。これらの目に見えるいやしの働きはセブンスデーアドベンチストへの試みとなる。大いなる光をもっていた多くの者がキリストと一つになっていなかったために、光のうちを歩くのに失敗する。

よこしまな者たちがみなわたしたちを取り巻いて、あざけり、わたしたちを滅 ぼすと脅かしている間、わたしたちの仲間は失望のうちに涙を流し、神の確かな み約束を祈り、嘆願しているのをわたしは見た。彼らはわたしたちの弱々しさをあ ざ笑い、わたしたちの人数の少なさを愚弄し、深く傷つけるように計算した言葉 でわたしたちをあざけった。彼らはわたしたちが世の残りの人たちすべてから独立 した立場を取っているということでわたしたちを告発した。彼らはわたしたちの資 源を断ち切り、売ることも買うこともできないようにし、わたしたちの悲惨な貧困 と打ちひしがれた状態に言及した。彼らはわたしたちがどうやって世なしに生き ていけるか考えられなかった。もし世に依存しているのであれば、世の習慣や慣 例、そして世の法律に譲歩しなければならないはずである、さもなければ世から 出て行く他はない。もしわたしたちが世において主が恵んで下さる唯一の民であ るなら、状況はひどくわたしたちに不利に見える。彼らは自分たちが真理を持っ ており、彼らの間で奇跡が行われ、天からの天使たちが彼らと話し、彼らと共に 歩き、偉大な力としるしと不思議が彼らの間で行われ、そしてこれらが彼らが待 ち望んでいた福千年期であると宣言した。全世界は改心し、日曜休業令と調和 している。そしてこの数の少ない弱々しい人々は地の法律に公然と反対して立ち、 そして神の律法が地上で唯一、正しいものであると主張したのである。(手紙6、 1844年)

サタンはどんな奇跡でも可能であれば偽装するので神の民は奇跡を行うことで自分たちの安全を見出だすことができない。……彼らは「こう記されている」という生けるみ言葉に堅く立つべきである。「セレクテット・メッセージ2巻55」

超自然的な光景

「また大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ恐ろしいことや 天からの物すごい前兆があるであろう。」 (ルカ 21:11)

時の終わりが近づくにつれて、異教の力が外面的にはますます大きく誇示されるようになる。異教の神々は目覚しい力を発揮し、世界の町々に自分たちを見せびらかす。そしてこのことはすでに成就し始めている。(牧師への証 117、118)

しかし、エルサレムに下った刑罰に関する救い主の預言は、もう一つの成就を見なければならない。あの恐ろしいエルサレム滅亡も、そのできごとのほんのかすかな影にしかすぎないのである。すなわち、われわれは、選ばれた都の滅亡のなかに、神のあわれみを拒み、神の律法をふみにじってきた世界の運命を見るのである。(各時代の大争闘上巻 25, 26)

災害と滅亡を予告するしるしと不思議があらわれた。真夜中に、神殿と祭壇の上に異様な光が輝いた。戦いのために戦車や勇士たちが集結するのが、日没のとき雲の上に描き出された。(同上 17)

1906年8月24日、すなわち先週の金曜日の朝、わたしが目覚める前に非常に印象的な光景がわたしの前に示された。わたしは眠りから目覚めたようであったが、自分の家にいたのではなかった。わたしは窓から恐ろしい大火災を見ることができた。大きな火の玉が家々に落ち、これらの火の玉から火の矢が四方八方へ飛んでいた。燃え出す火を消すのは不可能で、多くの建物が焼け落ちていた。人々の恐怖は口で言いあらわせるものではなかった。(伝道 29)

まもなく、超自然的な恐ろしい光景が、奇跡を行う悪鬼たちの力のしるしとして天に現われるであろう。悪霊たちは地の王たちのところと全世界とに出て行って、彼らを欺瞞の中に閉じ込め、天の統治に対するサタンの最後の闘争に加わるようにかり立てる。これらの手先によって、為政者も国民も一様に欺かれる。自分はキリストであると称する者たちが現われ、世の贖い主のものである称号と礼拝とを要求する。彼らは不思議ないやしの奇跡を行ない、聖書のあかしとは相反する啓示を天から受けたと公言する。(各時代の大争闘下巻 398)

神の印と獣の刻印

「わたしは、あかしを一つにまとめ、教 (律法) をわが弟子たちのうちに封じておこう。」(イザヤ 8:16)

生きている義人は猶予期間が閉じる前に神の印を受ける。(セレクテット・メッセージ1 巻 66)

神のしるし、あるいは印は、主の創造の記念日である週の第七日目の安息日の遵守にあらわれる。……獣の刻印はこの反対、すなわち週の第一日目の遵守なのである。(教会への証8巻117)

日曜日遵守はまだ獣の刻印ではなく、この偽りの安息日を礼拝するようにと人々に強いる法令が出るまで獣の刻印ではない。この日がテストとなるときが来る。しかしその時はまだ来てはいない。(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント |7 巻 977)

だれもまだ獣の刻印を受けてはいない。テストの時はまだ来ていない。あらゆる教会に真のクリスチャンがいる。ローマカトリック教会も例外ではない。この人々が光を受け、第四条の戒めに対する義務を知るまではだれも刑を宣告されることはない。しかし偽りの安息日を強制する法令が発布され、第三天使の大いなる叫びが獣とその像を拝むことに対して人々に警告するとき、偽物と本物の間に線がはっきりと引かれる。それでもまだ違反をし続ける者は獣の刻印を受けるのである。(伝道 234, 235)

もしも真理の光があなたに示され、第四条の安息日について啓示を受け、日曜日遵守に対しては神のみ言葉の中に何の根拠もないことが明らかにされてのち、まだ偽りの安息日を固守し、神が「わたしの聖なる日」と呼んでおられる安息日を聖く守ることを拒むなら、あなたは獣の刻印を受ける。いつこのようなことが起こるであろうか。聖書の中には、日曜日を他の週日以上であると示している言葉はないということをあなたが知りながら日曜日に働くのをやめ、神を礼拝するようにと命じる法令にあなたが従う時、あなたは獣の刻印を受けることに同意し、神の印を拒むことになるのである。(伝道 235)

まもなく神の子である一人びとりがこのお方の印を身につける。そのしるしがわたしたちの額にしるされるなら!神の僕たちの額に印を押す天使が自分を通り過ぎてしまうという考えにだれが耐えることができるだろうか。(レピュー・アンド・ヘラルド 1889 年 5 月 28 日)

印する働きと後の雨

「しかし、神のゆるがない土台はすえられていて、それに次の句が証印として、 しるされている。『主は自分の者たちを知る』。また『主の名を呼ぶ者は、すべて不 義から離れよ』。」(テモテ第二 2:19)

救いの働きが終了し、神の民に印する働きが終わる前に、わたしたちは神の御霊を注がれる。天からの御使いたちがわたしたちのただ中にいるであろう。(セレ クテット・メッセージ1 巻 111)

わたしたちの天父は、わたしたちの成し遂げられないことをわたしたちの手に要求なさることはない。このお方はご自分の民が、自分たちのための神のご目的を成し遂げようと熱心に働くことを望んでおられる。彼らは力を求めて祈り、力を期待し、その力を受けるべきであるが、それは彼らがキリスト・イエスにある男女の完全な姿にまで成長することができるためである。

教会員すべてが個人的な敬虔さを深めているわけではない。それゆえに彼らは自分の個人的な責任を理解していない。彼らはクリスチャンの完全さという高い標準に到達することが自分たちの特権であり、また義務であることに気づいていない。……わたしたちは後の雨を待ち望み、教会が上からの力を授けられ、み働きにふさわしい者となる、より良い日を確信をもって望んでいるであろうか。後の雨は神が与えてくださった力を使おうとしない怠け者を、決して新たにすることもなく、励ますこともしない。

わたしたちには、霊的な生活を養い、活気づける、純潔で生命を与える環境がとても必要である。わたしたちには熱心さがもっと必要である。世に伝えるためにわたしたちに与えられた厳粛なメッセージは、大いなる燃えるような情熱をもって宣べ伝え、そして不信仰な者にも強く印象づけて、いと高きお方がわたしたちと共に働いておられることをその人々にわからせ、このお方がわたしたちの能力と強さの源であられるということを知るように導くことである。……

あなたは迷子の羊をおりに連れ戻す努力をするのに、全力をつくしているだろうか。警告を受けるはずの人々が、まだ知らないままに、何千、何万といる。あなたが今まで祈ったことがないほど、キリストの力を求めて祈りなさい。御霊の感化を求めて祈りなさい。そうすれば、あなたは滅び行く人々を救いたいとの願いに満たされるであろう。「どうか、神がわれらをあわれみ、われらを祝福し、そのみ顔をわれらの上に照されるように。これはあなたの道があまねく地に知られ、あなたの救の力がもろもろの国民のうちに知られるためです。」という祈りを天へ登って行かせなさい。(詩篇 67:1, 2) (天国で 338)

残りの民と印する働き

「主はサタンに言われた、『サタンよ、主はあなたを責めるのだ。すなわちエルサレムを選んだ主はあなたを責めるのだ。これは火の中から取り出した燃えさしではないか』。」(ゼカリヤ 3:2)

残りの教会は大きな試練と悩みに会う。神の戒めを守りイエスの信仰を持ちつづける者は龍とその軍勢の怒りを感じる。サタンは世を自分の臣下として数えており、背教した教会の支配権を得ている。しかしここに、サタンの至上権に抵抗する小さな群れがある。もしサタンが彼らを地上から抹殺することができるなら、彼の勝利は完全なものとなる。彼がイスラエルを滅ぼすために異教の国々に影響を与えたように、そのように近い将来、サタンは神の民を滅ぼすために、地上に住む悪の勢力を動かすであろう。すべての者は、神の律法に違反する人間の命令に従順を表すように要求される。神と義務とに忠実である者は脅かされ、攻撃され、追放される。彼らは、「両親や兄弟、また親族や友人に」裏切られる。

彼らの唯一の希望は神の恵みのうちにある。彼らの唯一の防御は祈りとなる。 ヨシュアが御使の前で嘆願したように、砕けた心と熱心な信仰を持った残りの教 会は、自分たちの助け主であられるイエス・キリストを通して、許しと救いを嘆願 するのである。……

サタンは民が自分たちの罪によって、神の保護を失ってしまったと宣言し、自分はこの者たちを犯罪人として滅ぼす権利があると主張して、民に対する告発を神のみ前で主張する。……

しかし、キリストに従う者は、罪を犯したが、悪の支配に自分をゆだねてはいなかった。彼らは自分たちの罪を捨て去り、謙遜と悔い改めのうちに主を求めて、聖なる仲保者が自分たちのために弁護して下さることを求めていた。……

神の民は地で行われるいまわしい行為を嘆き、悲しんで泣いている。彼らは神の律法を踏みつける危険を、よこしまな者たちに涙ながらに警告する。そして言いようのない悲しみをもって、自分自身の罪のために、神の御前に自分を低くする。よこしまな者は民の悲しみをからかい、厳粛な哀願をあざけり、彼らが弱さと呼ぶものを嗤(わら)う。しかし神の民の苦悩と謙遜は罪の結果失った品性の強さと高貴さを彼らが取り戻しているという、まぎれもない証拠である。……

サタンが告発している間に、目には見えないけれども聖天使たちが行き交い、 民に生ける神の印を押しているのである。(レピュー・アンド・ヘラルド 1908 年 1 月 9 日)

あらゆる国家がアメリカの導きに従う

「そこで民らはみな、角笛、横笛、琴、三角琴、立琴、風笛などの、もろもろの楽器の音を聞くや、諸民、諸族、諸国語の者たちはみな、ひれ伏して、ネブカデネザル王の立てた金の像を拝んだ。」(ダニエル 3:7)

歴史はくり返す。偽りの宗教が高められる。普通の週日であり、何らの神聖さもない週の第一日目が、バビロンで建てられた金の像のように掲げられる。すべての部族、国語、国民はこの偽りの安息日を礼拝するようにと命令される。神によって制定され、創造の記念として世に与えられたその日を無視するというのがサタンの計画である。

この日を尊ぶことを強制する法令が全世界に発布される。(SDA パイブル・コメンタ リ[E・G・ホワイト・コメント]7 巻 976)

宗教の自由の地アメリカが、偽りの安息日を尊ぶよう、良心を強制し、人に強いて法王権と結びつくとき、地上のあらゆる国の人々はアメリカの手本に従う。 (教会への証6巻18)

他の諸国家はアメリカの手本に従う。アメリカは先行するが、世界各地でまだ同じ危機が神の民に及ぶ。(同上 395)

諸国はその中心へと動かされる。義を神の唯一の基準とし、品性の唯一の確かな標準であると宣言する者たちから、保護は取り去られる。そして、国家の会議による法令に従わず、神の誠実を無視するために罪ある人間が定めた安息日を高めるという、国の法律を守らない者すべては、ローマカトリック教の非道な権力だけでなく、獣の像であるプロテスタント教会の非道な力をも感じるのである。(セレケテット・メッセージ 2 巻 380)

神の民はこれらの悩みの時を前にして、揺らぐことのない信仰を持たなければならない。神の子らは、ただこのお方だけが礼拝の対象であること、そしていかに重大なことであり、それが生命そのものにかかわるものであっても、彼らを偽りの礼拝に少しでも妥協させることはできないことを明らかにしなければならない。忠実な心の持ち主にとっては、罪深い有限な人間の命令は、永遠の神の言葉と比較するときに、全く無意味なものとなってしまうのである。たとえ投獄と追放の憂き目に遭い、死に処せられても真理には従うのである。(国と指導者下巻121)

最後の始まり

「主なる神はこう言われる、災が引き続いて起る。見よ、災が来る。 終りが来る。 その終りが来る。 それが起って、あなたに臨む。見よ、それが来る。」(エゼキエル 7:5,6)

世界は、恐ろしい結果をもたらす問題に直面しようとしている。地の権力者たちは、合同して神の戒めに逆らって戦い、「小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に」、偽りの安息日を守ることによって教会の習慣に従うよう命じるのである(黙示録 13:16)。これに従わない者はすべて、法律上の刑罰を受ける。そして、ついには、彼らは死刑に値する者であると宣告される。他方、創造主の安息日を守ることを命じる神の律法は、それに対する服従を要求し、その戒めを犯すすべての者に神の怒りを警告する。

こうして問題点が明らかに示されるとともに、だれでも神の律法をふみにじって人間の法令に従うものは、獣の刻印を受ける。彼は、神の代わりに服従することを選んだその権力に対する忠誠のしるしを受けるのである。……

安息日は、特に論争点となっている真理であるから、忠誠の大試金石となる。 最後の試練が人々を襲うとき、神に仕える者と神に仕えない者の区別が明らかに なる。第四条の戒めに反して、国家の法律に従って偽りの安息日を守ることは、 神に敵対する権力に忠誠を尽くすという表明であり、一方、神の戒めに従って真 の安息日を守ることは、創造主に対する忠誠の証拠である。一方は、地上の権 力に服従するしるしを受け入れることによって、獣の刻印を受け、他方は、神の 権威に対する忠誠のしるしを選んで、神の印を受けるのである。

これまで、第三天使のメッセージの真理を伝えた者は、単に人騒がせな者としか思われないことがよくあった。……しかし、日曜日遵守を強制する問題が広く論じられるとき、長い間疑われ信じられなかった事件が近づいてくるのがわかり、第三天使のメッセージは、今までになかったような結果をもたらすことであろう。(各時代の大争闘下巻 374, 375)

国家の背教に国家の滅亡が続く

「地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ。」(イザヤ 24:5)

アメリカ合衆国民は恵まれた民であった。しかし彼らが宗教の自由を制限し、プロテスタント主義を放棄して、ローマカトリックを支持するとき、彼らの罪の桝目は満ちて、「国家の背教」が天の書にしるされる。この背教の結果は国家の滅亡である。(レピュー・アンド・ヘラルド 1893 年 5 月 2 日)

神の律法を犯して、ローマ法王権の制度を強制する法令を出すことによって、わが国〔アメリカ合衆国〕は、義とのつながりを完全に断つことになる。プロテスタント教会が、ローマの権力と手を結ぶために淵を越えて手をさしのべ、心霊術と手をにぎるために深淵を越えて手を差し出し、この三重連合による感化の下に、わが国がプロテスタントと共和政府としての憲法のあらゆる原則を拒絶し、法王制の偽りと惑わしを広げるために準備をするとき、その時に、わたしたちは、サタンの驚くべき働きのときが来たことと、終わりが近いことを知ることができる。(教会への証 5 巻 451)

サタンは心霊術を通して人々の病気をいやし、もっと高尚な新しい信仰を提供すると称して、人類の恩人のように見せかける。だが同時に彼は破壊者として働く。……

サタンは人々に対し、あらゆる病気をいやすことのできる偉大な医師のように みせかけながら、他方では病気や災害を生じさせ、ついには人口の多い都市が 破滅して荒廃する。……

しかもこの大欺瞞者サタンは、神に仕える者たちがこれらの災害を引き起こしているのだと、人々に説く。(各時代の大争闘下巻 351 – 353)

人々が神から遠く離れれば離れるほど、サタンは不従順の子らの上に力を発揮するのを許される。彼は人々に破滅をもたらす。陸にも海にも災害が起こる。財産や生命が火事や洪水で失われる。サタンはこれらのことを、自分が作った偶像を拝するのを拒む者の責任にする。サタンの代理人たちは、これらすべての問題の原因はセブンスデーアドベンチストであると指摘する。「この人々は法律を無視している」と彼らは言う。「彼らは日曜日を冒涜している。彼らに日曜日遵守の法律を無理にでも従わせるなら、これらの恐ろしい神罰は止むであろう。」と彼らは言うのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1901 年 7 月 16 日)

神の民に敵対する世界

「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、 イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。」(黙 示録 12:17)

わたしたちのグループは注目するには値しない者として扱われてきた。しかし変化が起こる。クリスチャン世界は必然的に戒めを守る民を目立たせる動きを今している。(教会への証5巻546)

全世界がセブンスデー・アドベンチストに対する憎しみに動かされることになる。なぜなら彼らはこの反キリスト権力の制度である日曜日に名誉を与えることによって、法王制度に敬意をあらわさないからである。世に対する自分の至上権が論争になることがないように、地上から、彼らを消し去ることがサタンの目的である。(牧師への証 37)

わたしたちの民のとる真理の立場はすべて、最も偉大な人々の心に批判を起こさせる。世界の偉大な人々のうちでも最高の人々が真理に接することになる。それゆえわたしたちがとる立場はすべて、聖書によって精密に調べ、吟味するべきである。現在わたしたちは気づかれていないように見えるが、いつまでもそうなのではない。わたしたちを正面へ押し出そうという動きが働いている。そしてもし、わたしたちの真理の理論が歴史家や世の偉大な人々によってそしりを受けるようなものであるなら、そうされるのである。

わたしたちは個人的に、何が真理であるかを自分のために知らなければならない。そして、柔和と恐れをもち、自尊心や誇り、またうぬぼれを捨てて、キリストの精神で、わたしたちのもっている望みの理由を説明する用意をしていなければならない。わたしたちは自分の信じていることに対する証をするため、個々に一人で立つときが近づいている。

わたしたちはあらゆる点について攻撃される。わたしたちは極限まで試みられる。 わたしたちは親から受け継いだという単純な理由で自分の信仰を保ちたくはない。

そのような信仰では、わたしたちの目前にある恐ろしい試みに耐えることができないからである。わたしたちは自分がなぜセブンスデーアドベンチストなのかを知り、わたしたちが分離した者、区別されたものとして世から出てくる本当の理由がなんであるかを知る必要がある……

闇の力は自分たちの砲列をわたしたちに向けている。そして、無関心で不注意な者、地上の富に自分の愛情を傾けている者、またご自分の民を扱われる神の方法を理解しようとしない者はすぐ餌食になる。イエスのうちにある真理の知識以外の力はわたしたちを不動の者としない。この力を持つことによって一人が千人を追い払い、二人が万人を敗走させるのである。(レピュー・アンド・ヘラルド1884年4月29日)

黙示録 18章の御使

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。」(黙示録 18:1)

黙示録 18 章の預言はまもなく成就する。第三天使のメッセージを宣布する間に、「もう一人の御使」が「大いなる権威をもって、天から降りてくる」事により、地は「彼の栄光によって明るくされ」るのである。主の御霊が本当に恵み深く、献身した人間の器を祝福されるので、男も女も子供たちも唇を開いて、水が海をおおっているように、神の知識と、その並ぶもののない栄光で地が満たされている喜びと感謝を捧げるのである。

自分たちの初めの確信を終わりまで堅く持ち続ける者は第三天使のメッセージが大いなる力をもって宣布される期間の間、しっかりと目をさましている。大いなる叫びの間、崇高な主の摂理による介入によって助けを受けた教会は救いの知識を非常にたくさん広めるので、光はあらゆる都市や町々に伝えられる。地は救いの知識で満ちあふれる。生まれ変わらせる神の御霊が熱心で活動的な神の代理者たちに成功という報いを非常に豊かに与えるので現代の真理という光はいたるところにひらめき渡る。(レピュー・アンド・ヘラルド1904 年 10 月 13 日)

このとき、神が状況の支配者であられることを表す一連の出来事が起こる。 真理がはつきりと間違えようのない言葉で宣言される。民として、わたしたちは、 聖霊の支配される導きのもとに、主の道を備えなければならない。福音はその純 潔さのうちに宣べ伝えられるべきである。生ける水の流れは進むにつれて、深く、 広くなるべきである。あらゆる場所で近くでも遠くでも、人々はすきをもって働く 場所から、心を大きく占めるもっと一般的な商売をする職業の場から召され、経 験のある人々と接して教育を受ける。この人々が効果的に働くことを学ぶと、力強 く真理を宣言する。神の摂理のこの上なく素晴らしい働きを通して、山のような 困難は取り除かれ、海に投げ込まれる。地上の住民にとって非常に重要である このメッセージは聞かれ、また理解される。人々は真理が何であるかを知る。前 へ、もっと前へと、全地が警告を受けるまで、この働きは前進する。そしてそれ から最後がくるのである。(同上、1906年7月5日)

前の雨と後の雨

「シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しめ。主はあなたがた を義とするために秋の雨を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前の ように、秋の雨と春の雨とを降らせられる。」(ヨエル 2:23)

教会に、神の力のすばらしいあらわれがあるべきである。しかし主の前に自らを謙遜にし、告白と悔い改めによって、自分の心の扉を開かない者にはこのあらわれはなんの感動も与えない。神の栄光で地を明るくするその力が現われると、彼らは危険を感じまた彼らに恐怖感を起こされるものであると思うので、その力を拒否する立場に自分たちの身を置くのである。主は彼らの考えや期待通りに働いてはくださらないので、彼らはその働きに反対する。「なぜわたしたちは長年の間そのみ働きにたずさわって来たのに、神の御霊を知らなかったのか」と彼らは言う。なぜなら彼らは神のメッセージや警告や懇願に応えないで、「自分は富んでいる。豊かになった、何の不自由もない」と頑固に言ったからである。

タラントや長い経験も、人が義の太陽の輝く光の下に自分を置かない限り、その人を光の通路にすることはない。光の通路は聖霊が働くことによって召され、選ばれ、準備されるのである。聖なる事柄を取り扱う者が神の力強いみ手のうちに謙遜になるとき、主は彼らを高めて下さる。主はこの人々を識別力のある人、すなわち、聖霊の恵みに満ちた人にして下さる。品性の強い、利己的な性質や彼らの頑固さは世の光であられる方から、輝く光の中で見られる。「もしあなたが悔い改めなければ、わたしはあなたのところに来て、あなたの燭台をその場所から取りのけよう」。もしあなたが心をつくして主を求めるなら、あなたは主を見つけ出す。(レピュー・アンド・ヘラルド 1890 年 12 月 23 日 extra)

前の雨として表されている恵みを無視してはならない。自分が持っている光に従って生きる者だけが、もっと大きな光を受ける。わたしたちが活動的なクリスチャンの徳を実証するのに、日々前進していなければ、後の雨という聖霊の降下に気づくことはない。後の雨はわたしたちの周りにいるすべての心に降り注ぐであろうが、わたしたちはそれに気づくこともないし、また受けることもないのである。(牧師への証 507)

目覚めるべき時

「なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。」(ローマ13:11, 12)

大争闘は終わりに近づいている。海や陸での災難に関するあらゆる報告はすべての終わりが間近いという事実を示す証である。戦争や戦争のうわさがこのことを明言している。わたしたちの前に開かれている偉大な出来事をクリスチャンが期待するとき、その喜びで心の鼓動が速く打たない者がいるだろうか。主は来られる。わたしたちには近づいてこられる神の足音が聞こえるのである。(わたしたちの高い召し346)

キリストの来臨が近いというこの知識がその力を失わないようにすべきである。 そしてわたしたちは怠惰になったり、不注意になったり、眠り込んでしまったりすべきではない。すなわち、現実に対して無感覚、また無関心になってはならないのである。まどろむことによってわたしたちは現実の世界にはいなくなり、自分の周りで起こっている事柄に気づかないのである。……

自分の周り一面に、輝いている真理のきらめく光をもっていながら、それに気づいていない人々がいる。彼らは敵に魔法をかけられており、敵の魔力を持った力で、呪文にかけられているのである。彼らはわたしたちの世界にまもなく訪れる大いなる日に対する備えをしていない。この人々は宗教に関する真理にまったく無感覚であるように思われる。

目覚めている若者が何人かでもいるであろうか。夜が来、また朝が来ることを知っている者は、眠っている仲間を起こすために、根気よく働くべきである。彼らはこの仲間の危険を察しその人々のために祈り、キリストがまもなくこられることを自分が信じているということを、自分の生活と品性でこの人々に示すことができないであろうか。……急速にわたしたちと永遠の間の時間的な間隔が減っているということがわたしたちに深い印象を与えるべきである。過ぎ行く日々はわたしたちにとって、品性を完全なものとする働きを完成するために残された日が減っているということなのである。……

多くの者が眠り込んで不注意な無関心さのうちに貴重な時間をもて遊んでいる間に、信じる者は永遠の世界の淵に立っているかのようにまじめに、目を覚まして、熱心に、また勤勉に、そして用心して祈っていなければならない。……

愛する若い方々よ、あなたがたは自分の明かりを整えて、燃やし続けているだろうか。(同上346)

研究 25

三重のメッセージ



もうひとりの御使のメッセージ Part 4

白い衣

「彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである。」(黙示録 19:8)

「白い衣はキリストの義、すなわちキリストだけが与えることのできる礼服である。目薬はわたしたちの間に非常に欠けている真の霊的な識別力である。なぜなら、霊的なことは霊的に識別されなければならないからである。」(SDAパイプル・コメンクリ [E・G・ホワイト・コメント]7巻965)

「白い衣は品性のうちに織り込まれるキリストの義である。心の純潔と動機の 純潔とは、自分の衣を洗い、それを小羊の血によって白くする一人びとりの特徴 となる。」(レピュー・アンド・ヘラルド 1888 年 7月 24 日)

「神の栄光、クリスチャン品性の完全が、わたしたちの生涯の目標となり、目的となるべきである。キリストに従う人々は気質においてキリストを模倣しなければならない。……キリストのごとくに、というのが合言葉である。すなわち、あなたの父親やあなたの母親のようにではなく、イエス・キリストのごとくに一キリストのうちに隠され、キリストの義に覆われ、キリストの精神を吹き込まれることである。」(思いと品性と個性2巻643)

「『彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである』(ヨハネ1:12)。この力は人間には備わっていない。それは神の力である。魂はキリストを受け入れるとき、キリストのような生活を送る力

を受ける。

神は、神の子らに完全をお求めになる。神の律法はご自身の品性の写しであり、またすべての品性の標準である。神がどのような人々によって御国を構成なさるかについてだれもまちがいをしないように、この永遠の標準がすべての者に与えられている。キリストの地上生活は神の律法の完全な表現であった。そして自分は神の子であると表明する者の品性がキリストのようになれば、彼らは神の戒めに従うのである。そのとき主は、天の家族を構成する一員として彼らを信頼することがおできになる。彼らはキリストの義の輝かしいよそおいを身にまとって、王の婚宴の座につく。彼らは血で洗われた会衆に加わる権利を持つのである。

礼服をつけずに婚宴に出席した人は、今日のわたしたちの世界の多くの人々を 代表している。彼らはクリスチャンであると表明し、福音の祝福と特権にあずか ることを主張するが、自分の品性が変えられる必要があるとは思っていない。彼 らは真心から罪を悔い改めたことがない。彼らはキリストの必要を自覚せず、キ リストへの信仰を働かせない。彼らは悪への先天的並びに後天的傾向に勝利し ていない。それにもかかわらず彼らは自分は高潔であると思っており、キリストに 信頼せずに自分の功績にたよっている。彼らはみことばを聞きに婚宴にあつまる が、キリストの義の衣を身につけていない。

みずからクリスチャンと称する者の中には、単なる道徳家にすぎない者が多い。彼らは、キリストを世にあらわして主をあがめる唯一のたまものを拒んでいる。 聖霊のお働きについては彼らは何も知らないのである。彼らはみことばを行なわない。キリストと一体である者と、世に結ばれている者とを区別する天の原則は、ほとんど識別することができなくなっている。キリストに従うと表明する者は、もはや特別にわかたれた民ではない。その境界線は明りょうでない。民は世と、そのならわしと、習慣と、利己主義のとりこになっている。世が教会と共に律法に従わなければならないのに、逆に教会が世とともに律法を犯している状態である。教会は日ごとに世に転向しつつある。

彼らは、みなキリストの死によって救われることを期待はするが、キリストの自己犠牲の生活を送ろうとしない。彼らは価なくして与えられる豊かな恵みを賛美し、みずからをうわべだけの義でおおって品性の欠陥を隠そうとする。しかし、彼らの努力は主の日になんの役にも立たない。

キリストの義は、心の中に一つでも愛している罪があれば、それをおおうこと

をしない。人は、心の中で律法に違反していても外面的な違反行為を犯さなければ、世間の人々から高潔な人物と見なされるだろう。しかし、神の律法は心の秘密を見ぬく。すべての行為は、その動機によってさばかれる。神の律法の原則に調和している事がらだけが、さばきのときに立ちうるのである。

神は愛である。神は、キリストを与えることによってその愛を示された。『御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るため』に『そのひとり子を賜わった』とき、神は、ご自分で買いとられた所有である人類に何一つさし控えることをなさらなかった(ヨハネ三ノ一六)。神は全天をお与えになった。強敵サタンに打ち負かされないように、わたしたちはそこから力と能力を引き出すことができる。だが、神の愛は罪を許容するものではない。神はサタンの罪を許容されなかった。またアダムやカインの罪をも許されなかった。同様にいかなる人の子の罪もお許しにならない。神はわたしたちの罪を黙認したり、品性の欠陥を看過したりなさらない。神はわたしたちに、そのみ名によって勝利することを期待されるのである。

キリストの義のたまものを拒む者は、彼らを神のむすこ娘とさせる品性を拒んでいるのである。彼らは婚宴の席につらなる唯一の資格であるものを拒んでいるのである。

たとえの中で、『どうしてあなたは礼服をつけないで、ここにはいってきたのですか』と王に尋ねられたとき、この男は黙っていた。このことは大いなる審判の日にもそうである。人々は今は自分の品性の欠陥の言いわけをすることができても、その日にはなんの言いわけもできない。」(キリストの実物教訓 294 ~ 296)

「わたしはあなたが日ごとにキリストの義で覆われるようにと願い、祈っている。」(レピュー・アンド・ヘラルド 1899 年 5 月 9 日)

キリストの義の衣

「そこで、あなたに勧める。……あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買いなさい。」(黙示録 3:18)

「キリストの義は、告白されてもいなければ捨てられてもいない罪をおおう外 衣ではない。それは品性を一変し、行為を規制する生活原則である。聖潔とは 神のために完全になることである。それは内住する天の原則に対して心と生活を まったく屈服させることである。」(各時代の希望中巻 377) 「キリストご自身の備えてくださった衣だけが、わたしたちを神の臨在の前に立たせてくれるのである。キリストはこのおおい、すなわち主ご自身の義の衣を、悔い改めて信ずる一人一人の魂に着せてくださるのである。……

天の織機で織られたこの衣には、人間の創意による糸は一本も含まれていない。キリストは人性をおとりになって完全な品性を形成された。そしてこの品性をわたしたちに分け与えてくださるのである。……

キリストはその全き従順によって、あらゆる人間が神の戒めに従うことができるようになさった。」(キリストの実物教訓 291, 292)

衣のために支払われた代価

「すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである。」(ローマ 5:19)

「さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。」(ペテロ第一2:24)

「キリストはわたしたちのためにご自分の身に人性をとられた。このお方はご自分の神性を覆われ、そして神性と人性が結合したのであった。このお方は、守ることはできないとサタンが宣言した律法を守ることができることを示された。キリストは、このわたしたちの世に立ち、サタンが偽ってきたことを示されるために、人性をまとわれた。このお方は神性と人性が結合すると、人はエホバの律法を守ることができることを実証するために、ご自分の身に人性を取られたのである。あなたは神性から人性を引き離し、キリストが来られるときまで自分自身の義を実現しようと試すことはできるが、それは失敗以外の何ものにもならないのである。」(信仰と行い71)

「わたしたちは無価値であっても、罪を取り除いてくださるお方、そして罪人を救うことを喜び、切望するお方がおられることを覚えていなければならない。このお方はご自身の血によって、すべての悪を行う人々のために刑罰を支払われた。神のみ前に悔いた心で認めたすべての罪は、このお方が取り除いてくださるのである。」(SDAパイプル・コメンクリ[E・G・ホワイト・コメント]7巻970)

義認:着せられる義

「かつ、この賜物は、ひとりの犯した罪の結果とは異なっている。なぜなら、さばきの場合は、ひとりの罪過から、罪に定めることになったが、恵みの場合には、多くの人の罪過から、義とする結果になるからである。もし、ひとりの罪過によって、そのひとりをとおして死が支配するに至ったとすれば、まして、あふれるばかりの恵みと義の賜物とを受けている者たちは、ひとりのイエス・キリストをとおし、いのちにあって、さらに力強く支配するはずではないか。このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。」(ローマ 5:16 ~ 18)

「ヨシュアは汚れた衣を着て、み使の前に立っていたが、み使は自分の前に立っている者どもに言った、彼の汚れた衣を脱がせなさい。またヨシュアに向かって言った、見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう。」(ゼカリヤ3:3,4)

「サタンは選ばれた忠実な神の民を、汚れと罪に満ちた存在としてあらわしてきた。彼は彼らが有罪であるところの罪を詳細に述べることができた。彼こそ自分の魅惑的な手管(てくだ)を通して、彼らをまさにこれらの罪に導きいれるために、悪の全軍をあげて同盟を組んだのではなかったか。しかし、彼らは悔い改め、キリストの義を受け入れたのであった。であるから、彼らは神のみ前にキリストの義の衣をまとって立っていた。……彼らが犯してきたすべての罪は許された。そして、彼らは神のみ前にあたかも罪を犯したことがないかのように、選ばれた真実な者として、無罪の者として、完全な者として立ったのである。」(牧師への証 40)

「自分が罪人であり、神の聖なる律法の違反者であることを知りながら、彼はキリストの完全な服従を、また世の罪のために死なれたカルバリーでのこのお方の死を見る。そして、彼には自分が信仰によってキリストの功績と犠牲のうちに義とされるという保証がある。彼は律法が自分のために神のみ子によって従われたこと、また不法の刑罰は信じる罪人の上にくだることはありえないことを悟る。キリストの積極的な服従は、信じる罪人を神の律法の要求に見合う義でおおうのである。」(神のむすこ娘たち 240)

「キリストの義を自分のものとするためには、罪人は思いと精神と行動の根本的な変化をもたらす悔い改めがどのようなものであるかを知る必要がある。」(セレク テッド・メッセージ 1 巻 393)

「キリストは信じる罪人が罪を続けず、戒めの不法から服従へと向き直るときに、ご自分の完全と義とを着せてくださる。」(レピュー・アンド・ヘラルド1899年5月23日)

「しかし、神は正義であられながら、かつキリストの功績を通して罪人を義とすることがおできになる一方で、だれ一人として知っている罪を犯したり、知っている義務をなおざりにしたりしながら、自分の魂をキリストの義の衣でおおうことはできない。神は、義認が行われる前に、心の完全な明け渡しを要求なさる。そして人が義認を維持するためには、愛によって働き魂をきよめる活動的で生きた信仰を通して、絶えざる服従がなくてはならない。」(セレクテッド・メッセージ 1巻366)

聖化:与えられる義

「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。」(ヨハネ 17:17)

「わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中にあって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」(ピリピ 2:12~15)

「愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか。」(コリント第二 7:1)

「義認とは許しを意味している。それは死のわざからきよめられた心が、聖化の祝福を受ける準備をすることを意味している。神はわたしたちにこの祝福を受けるために何をしなければならないかを教えてこられた。『恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである』。」(サインズ・オブ・タイムズ1902年12月17日)

「教会は、『しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、』『汚れのない麻布の衣を着る』のである (エペソ 5:27, 黙示録 19:8)。この麻布の衣は『聖徒たちの正しい行いである』と聖書にしるされている (黙示録一九ノ八)。主を自分の救い主として受け入れるすべての者に信仰を通して与えられるのは、キリストの義であり、キリストご自身の汚れのないご品性である。」(キリストの実物教訓290)

「白い衣は品性の純潔さであり、罪人に与えられるキリストの義である。これは実に、自発的な服従の生涯を送るために、ただキリストからのみ買うことのできる天の織物で作られた衣である。」(教会への証4巻88)

「聖化とは習慣的な神との交わりを意味している。」(レビュー・アンド・ヘラルド1906年3月15日)

「真の聖化は、すべての神の戒めを良心的に尊重することによって、すべての タラントを注意深く向上させることによって、そして慎重な会話によって、またす べての行動においてキリストの柔和をあらわすことによって証明される。」(SDA パイプル・コメンクリ [E・G・ホワイト・コメント]7 巻 908)

「神の律法に対する服従が聖化である。魂におけるこの働きに関して、間違った考えをもっている人が多い。しかし、イエスはご自分の弟子たちが真理を通して聖化されるようにと祈られ、さらに次のように付け加えられた。『あなたの御言は真理であります』(ヨハネ17:17)。聖化は瞬間的なものではなく、服従が継続的であるように漸進的な働きである。サタンがわたしたちにその誘惑を強く追るかぎり、自己との戦いは繰り返し、繰り返し戦われなくてはならない。しかし、服従によって、真理は魂を聖化するのである。真理に忠実である人々はキリストの功績を通して、状況が変わるたびにいちいち影響されてきたあらゆる品性の弱さを克服する。」(信仰と行い85)

キリストの義はどのようにわたしたちの品性のうちに植えつけられるか

「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」(ガラテヤ 2:20)

「もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受

けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われる であろう。」(ローマ 5:10)

「わたしたちが自分自身の心をキリストにささげるとき、心はキリストの心と結合し、意志はキリストの意志に没入し、精神はキリストの精神と一つになり、思いはキリストのうちにとらわれて、わたしたちはキリストのいのちを生きる。これがキリストの義の衣を着ることである。そして、主がわたしたちをご覧になるとき、いちじくの葉の衣でも、裸と罪のみにくさでもなく、エホバなる神の律法への完全な従順であるご自分の義の衣をお認めになる。」(キリストの実物教訓 292)

「わたしたちが口で何を言おうとも、キリストが義の行為となってあらわされるのでなければ、それは無にひとしい。

真理は心に植えつけられなければならない。それが頭脳を支配し、感情を調節しなければならない。人の品性全体が神のことばの印をおされなければならない。神のみことばの一点一画が日常生活の中にあらわされなければならない。天の性質にあずかる者は、神の義の標準であるその聖なる律法と調和する。神はこの規準によって人間の行為をおはかりになる。これが審判における品性の試金石となる。」(キリストの実物教訓 293)

「キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。」(キリストの実物教訓 47)

からどんなよい結果になると書いたか見てみよう。

「『日常生活の小さなできごとは、しばしばわたしたちが注意をはらうこと もなく過ぎていく。しかし、品性をかたちづくるのは、こうしたもろもろの ことなのである。生活上の一つ一つのできごとは善か悪かのために大きな 力をもっている。思いは毎日のテストによって訓練される必要がある。そ れはどんなむずかしい立場でももちこたえる力を得るためである』(教会へ の証(あかし) 4巻 561)。 『キリストに忠実(ちゅうじつ) であろうとすれば、 義務(ぎむ)を果(は)たすなかで耐(た)えなければならない苦闘(くとう) や闘(たたか) い、はらわなければならない自己否定(じこひてい) や犠牲(ぎ せい)は、キリストが生じさせているものではないということを、わたしは あなたにはっきりと申し上げる。……わたしたちがキリストへの従順(じゅ うじゅん)を拒(こば)み、サタンのしもべとなり、罪(つみ)の奴隷(ど れい)となるならば、試練(しれん)はさらに力と数を増(ま)して存在(そ んざい) するのである』(同上 558)。 聖書は、次のように述べているよ。 『善 良(ぜんりょう) な賢(かしこ) い者は恵(めぐ) みを得る、しかし、不信実(ふ しんじつ) な者の道は滅(ほろ) びである』(箴言 13:15)。『正しい者には 災(わざわい)が多い。しかし、主はすべてその中から彼を助(たす)け出 される』(詩篇 34:19)。 そうだよ、アレン。 大変な試練やテストはみんな にやってくる。でも、神さまの助けがなければ、それはもっとたくさんでもっ と大変なんだ。このお方はわたしたちの友だちであり、すべての必要の時 の助け主だよ。」

「お父さん、ぼく思うんだけど、これはイエスさまが地上にいらっしゃったとき、経験されたことなんだよね。このお方はご自分の学校の科目をしなければならなかったし、雑用もしなければならなかった。イエスさまの助けを必要としているすべての人に、良くしてあげたし、親切だった、ご自分の生涯をほんとうに、ほんとうに苦しいものにした人たちに対してさえそうだった。でも、イエスさまがご自分の働きを終えられた後、このお方は死人の中からよみがえることができ、話はハッピーエンドなんだ。」

「そのとおりだ、アレン。イエスさまは天でも地でもいっさいの権威(けんい)をもっておられる。そしてこのお方は今日、きみがしなければならないすべてのことを助けて下さるよ。今、イエスさまにお願いしよう!」

くるみ入りわらび餅

◎材料

水1 リットルタピオカの粉70 グラムさつまいものでん粉 (わらび餅の粉で代用可)100 グラム黒糖200 グラム刻みくるみ適量きな粉適量

◎作り方

- 1. 水の中に材料を全部入れて、火にかけてよく混ぜます。
- 2. そのうち、少しずつ固まってきます。
- 3. とろりとしたら、型に入れて、冷やします。
- 4. 冷えてから、適当な大きさに切り、きな粉をまぶします。

タピオカのもちもち感がひと味違うおいしさです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校:9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教:11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究:14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先:〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係 是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよ みもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全 に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



見るよりかんたん

「なぜときどき、ものごとがたいへんになってしまうの?」とアレンが聞きました。「どういう意味(いみ) だい、わがこよ」とお父さんがこたえました。

「なんだか、毎日、あたらしく大変なことをしなく ちゃいけないみたい!

算数の問題は、どんどんむずかしくなるし、 あんまりおもしろくもない本について、レポートを書かなくちゃいけない。それに、子犬が 離れたときにちらかしたものを、かたづけ なくちゃいけない。その次は、くま手で 葉っぱを何度もはかなくちゃいけない んだ。風がふくと、昨日、はいたのより、 もっと多くの葉っぱが落ちるんだも

の。それに近所の小さい男の子がやってきて、ぼくが積みあげた葉っぱの上にジャンプして、それをあたり一面に飛ばしちゃうんだよ。だから、終わるのに二倍かかっちゃうの。しかも、それを面白がってわらっているんだけど、ぼくはその子におこっちゃいけないって言われているんだ。……それにまだまだあるよ。……お父さん、こういう問題は、ぼくがよい子になって、神様に従おうとしているから起こるの?」

お父さんは、にっこりしました。「こういうことを、なんでだろうと思ったのは、アレンだけじゃないよ。忠実な王さまのダビデでさえ、なぜ悪人がこの地上で、まったく問題がないかのようにらくな生涯(しょうがい)を送っているように見えるのか、あやしんだんだ。詩篇 37:35~40 で、彼はこのことについて話しているよ。信仰によって、ダビデは神さまに信頼している人々によいことがもたらされること、そして悪人はほろびることを見たんだよ。ふしぎに思っているよね、神さまは本当に人が何をしているかぜんぶをごらんになっているんだろうか。なぜ、神さまはこういうことが起こることを許(ゆる) されるのだろう。主のしもべが、これらすべてのこと